

「固有 ID」によるドメイン認証

固有 ID は、ご注文完了後、申請毎米国認証局により割当てられ、別途 「ドメインコントロール検証が必要です」なる件名のメールにてご連絡致します。

(注) マルチドメイン証明書では収容されるすべてドメインに対しては **1**つの「固有 ID」を共有します。

【方策 1 : DNS レコード認証】

・「ベースドメイン (ネイキッドドメイン とも呼びます) 」の **DNS** 設定に「**TXT** レコード」を “追加” 頂くことでドメイン利用権限の認証を行います。(現状に影響及ぼさぬ様、**DNS** 設定ご担当部署・業者に作業頂くことを、強くお勧めします。)

- ベースドメインとは、(独自ドメイン) + **TOP LEVEL DOMAIN** で構成され、**TOP LEVEL DOMAIN** とは、**.co.jp** や **.com** 等含め、全世界の認証局が公認している以下リスト (**Mozilla** 社発行) に記載されている必要があります。

https://publicsuffix.org/list/public_suffix_list.dat

(市町村等の **TOP LEVEL DOMAIN** にはご注意ください。)

- 例えば、証明書のコモンネームが、www.xyz.example.com ある場合には、**example.com** がベースドメインとなります。

- 必ず、対象ドメインの「名前解決」に利用している **DNS** 上で設定してください。(特に、ドメインとサーバの管理業者が異なる場合ご注意ください。)

・この方法は、「Domain Zone Control」と呼び、証明書発行先 FQDN の「利用権限」を有していることの証として、当該 FQDN の「ベースドメイン」の DNS 上で「TXT レコード」として、米国認証局が申請毎に指定する「固有 ID」を追加登録頂くことで検証いたします。

- ・ DNS に「TXT レコード」として固有 ID の設定が完了されましたら、**固有 ID 通知メールの最下段に貼付されているリンク先**で、正しく設定されたかどうかの検証（「**今すぐ確認**」ボタンをクリック）を実施してください。
- ※ 当該リンク先の表示言語（英語->日本語）の変更方法は、本ガイド末尾をご覧ください。

ドメインオーナーシップの検証 (HTMLまたはDNS)

DNSレコード

DNSレコードの変更を行ってドメイン制御権を証明した場合、下のボタンをクリックすると、その変更が検証されます。

DNSレコードの変更に関するヘルプは、こちらをクリック:
https://www.secureserver.net/help/article/7452?prog_id=504762

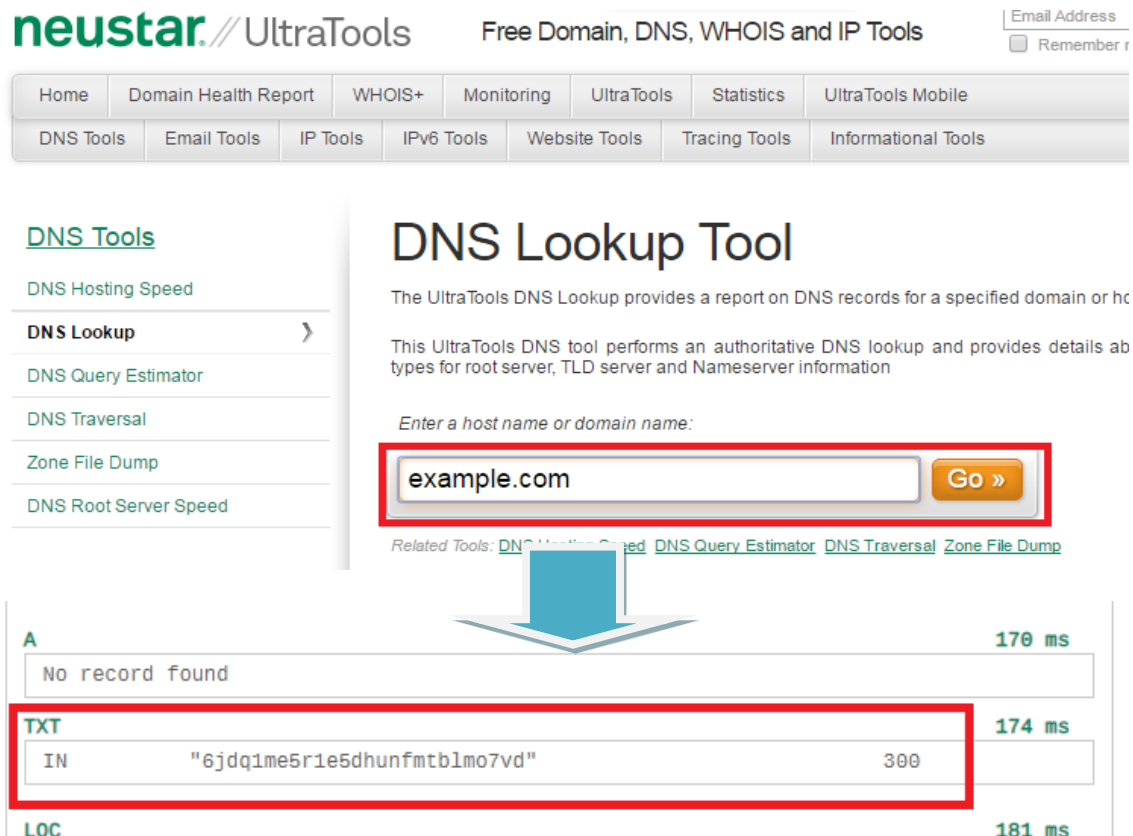
HTMLページ

HTMLページの変更を行ってドメイン制御権を証明した場合、下のボタンをクリックすると、その変更が検証されます。

HTMLページの変更に関するヘルプは、こちらをクリック:
https://www.secureserver.net/help/article/7452?prog_id=504762



(捕捉) DNS 設定内容については、Web 検索でヒットする各種 TXT record lookup ツールにて、お客様ご自身で容易に確認頂けます。例えば、
<https://www.ultratools.com/tools/dnsLookup>



The screenshot shows the UltraTools website with the 'DNS Lookup Tool' selected. The search input field contains 'example.com' and the 'Go »' button is highlighted with a red box. Below the search field, a blue arrow points to the results table. The results table shows the following data:

Record Type	Value	Response Time
A	No record found	170 ms
TXT	IN "6jdaq1me5r1e5dhunfmb1mo7vd" 300	174 ms
LOC		181 ms

【方策 2 : Webpage (HTML ページ) 認証】

- ・ワイルドカードはこの代替策はご利用頂けません。
- ・**Webpage (HTML ページ)** によるドメイン利用権限の認証を行います。
- ・この方法は、「Webpage Control Validation」と呼び、証明書発行先 FQDN の「利用権限」を有していることの証として、**当該 FQDN の配下に以下のディレクトリにて構成された URL に 認証ファイル** を新規作成頂くことで検証いたします (当該 URL は弊社からメールにてご案内しますので、そちらをご活用下さい) :

- URL は、**http or https** いずれでも **OK** です。 (ただし、**https** での設定では、証明書不一致等ブラウザ上でエラーが出ないことが要件です)

<http://申請 FQDN/.well-known/pki-validation/starfield.html>

<https://申請 FQDN/.well-known/pki-validation/starfield.html>

(注) 申請 FQDN が www.example.com の場合には、**www** を除いた **example.com** にて **URL** を設定してください。 (**www** 以外のサブドメインの場合はこの限りではありません) 「**www** の付帯した **URL** は認めない」は、米国認証局が定めるポリシーですので変更できません。

- さらに、**当該ページは白紙ではなく、申請毎に割り当てられて「固有 ID」を html にて記載してください。** (以下挿絵はサンプル **HTML** ページとなりますので、ご参照ください。)



(サンプル HTML ページ↑ では、「固有 ID」は、
96qv6gv97bp04s73gqp2iuof86 が見本として設定されていますが、実際には、ご注文完了後、米国認証局から割当てられる「固有 ID」をメールでご連絡します。)

- リダイレクト先に認証ファイルを置かず、当該 URL 直下に設定してください。

・最後に、Webpage (HTML ページ) に認証ファイル (固有 ID を明示した) の設定が完了されましたら、固有 ID 通知メールの最下段に貼付されているリンク先で、正しく設定されたかどうかの検証 (「今すぐ確認」ボタンをクリック) を実施してください。

※ 当該リンク先の表示言語 (英語->日本語) の変更方法は、本ガイド末尾をご覧ください。

ドメインオーナーシップの検証 (HTMLまたはDNS)

<h4>DNSレコード</h4> <p>DNSレコードの変更を行ってドメイン制御権を証明した場合、下のボタンをクリックすると、その変更が検証されます。</p> <p><input type="button" value="今すぐ確認"/></p> <p>DNSレコードの変更に関するヘルプは、こちらをクリック: https://www.secureserver.net/help/article/7452?prog_id=504762</p>	<h4>HTMLページ</h4> <p>HTMLページの変更を行ってドメイン制御権を証明した場合、下のボタンをクリックすると、その変更が検証されます。</p> <p><input type="button" value="今すぐ確認"/> ←</p> <p>HTMLページの変更に関するヘルプは、こちらをクリック: https://www.secureserver.net/help/article/7452?prog_id=504762</p>
---	---

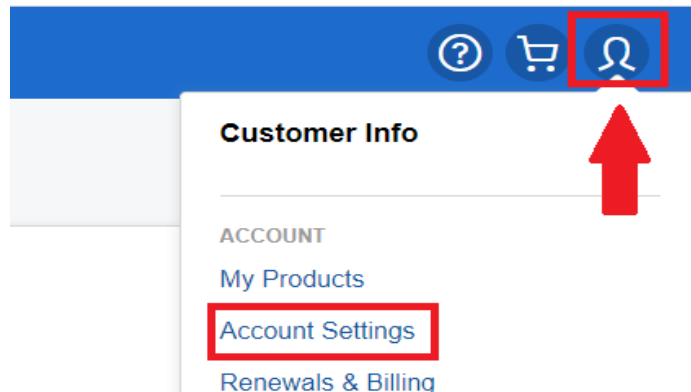
(捕捉) なお、上記お客様自身による設定検証結果、以下の挿絵のような「有効期限切れ・無効」なる旨メッセージが表示されることがありますが、これは、米国認証局側でも 1 日に数回バッチ処理により設定検証を実施しており、そちらが先にヒット (検証済) したことを示すものであり、何ら問題はございません。

ドメインオーナーシップの検証 (HTMLまたはDNS)

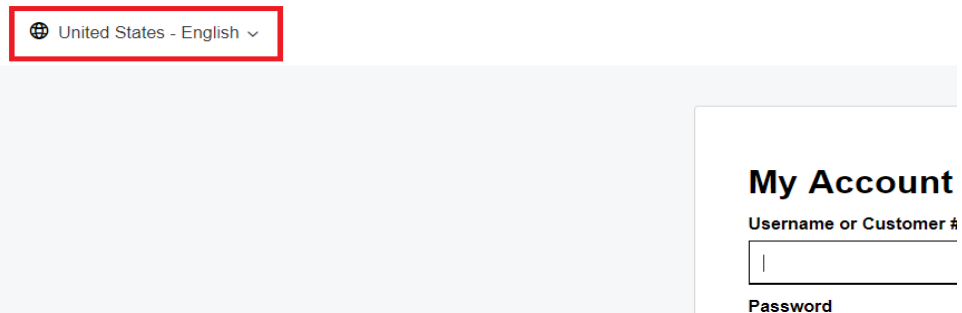
ドメイン制御用の固有トークンが有効期限切れまたは無効です。本要求のための新しいトークンが記載されている直

※ リンク先の固有 **ID** 設定検証ページの表示言語（英語->日本語）を変更するには？

1. リンク先ページ右肩上の“人”アイコンをクリックし、更に「Account Settings」を選択



2. 遷移ページの“ログイン”コーナーは無視し、左肩上の言語選択をクリック



3. 日本語を選択してください。

